

えんちょう通信

No.102

令和5年7月14日

福島市立清水幼稚園

発行者 佐藤一男

定期的な預かりモデル事業がスタートしました！



7月13日(木)、定期的な預かりモデル事業がスタートしました。申し込みのあった3歳の子どもたち8名が、みんな来てくれました。

この日が第一回目なので、まず遊戯室で年少組と年長組の子どもたちが、歌をうたって歓迎しました。3歳の子どもたちも嬉しくなって、歌っている在園児の列に駆けよって喜んでいました。

その後は1階に新しく用意された「たんぽぽ組」の保育室に移動して、思う存分に遊びました。ブロックでいろいろな自動車を作ったり、新幹線ごっこをやったりしました。外に出てシャボン玉をとぼしたり、キックバイクに乗ったりして遊ぶ子どももいました。

最初は少し緊張気味だった子どもたちも、時間が経つとどんどん遊びが楽しくなったようで、いつの間にか笑顔になって遊んでいました。

最後は、先生からシールをもらって、それを自分でシール帳に貼って、この日の活動は終わりです。

この日は、最初の回なので、午前11時に保護者の方に迎えに来ていただきました。

帰る時間になっても、「もっと遊びたかった！」という子もいました。本当に楽しい時間になってよかったなと思いました。

迎えに来た保護者の方が、「楽しそうに遊んでいて、安心しました。少し時間があったので家事ができて、よかったです。」とか、「朝、行きたがらなかったので心配していましたが、友だちと楽しそうに遊んでいたのが安心しました。」と話してくださいました。

『『赤ちゃんの幸せ』はみんなの願いですが、赤ちゃんの幸せは『お母さんの幸せ』にかかっているのです。』と、月刊の物語絵本『こどものとも』を創刊した松居直という先生が書いていました。(松居直『絵本は心のへその緒』2018 NPOブックスタート)

週に一度、それもわずか数時間の預かり保育ですが、それが少しでも保護者のみなさまの力になって、子どもたちの幸せに繋がったらこんな嬉しいことはありません。

今回は福島市役所のこども未来部の保育士の皆さんやこの事業の担当の方々も、応援に駆けつけてくださいました。これからも保護者のみなさま、地域のみなさまのご理解とご協力をお願い致します。